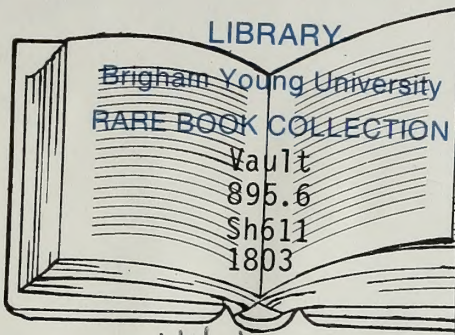


畫圖西遊譚



Vol. 1 copy 2



司馬道人以蘭學擅名

若其西洋畫銅板為吾

日本創業之作此為出

其餘技山川之真寫人

物之變態一披覽之如

遊四方也記遊者夥矣



衡人遊之譚 必因其所
觀竊其胸中逸可謂
人非其人畫難為畫
者乎余於此始甚喜之
享和三年秋初

春琴選書



西遊秘記

司馬果志授性尤工圖畫性素嘗西

遊瓊浦暇紀其所歷之勝畫其所以見之者

且乞梓者果志曰瓊浦冊卷是未足述其

旬也所以記說者且無從求能得親也ふの

友人陸君輯之名曰西遊拾遺乃將以木問和余

兄之舅自山川草木而然以至於華實若什

之矣吾而不獨陸景壇焉乃函而持先之境

吾而不記唯乎難矣哉此亦也凡圖畫之難非

獨勝之難也若之難也若之矣我未之

見也今夫君
許詢之才無
所不遇

不見之
形狀
炫耀
照燦
如畫
之妙
且席
以伎

吾道猶寸不能俟其而急之脩向叔求明備

如此之海潮生何林木爲榮盡之生

也然平書不
安小成
口
石
上
來
人
給
子
子
子

以生信之注通于海内其窮其神妙乎哉也

之為不陪也之為難也果也則歸仁澤

與
永善

寬政甲寅年五月

未植

神
者
永
植



西遊旅譚序

余嘗遊於伊豆浴乎熱海而登于日金山
山上有小山曰園山前抱天城之峻
後負函關之巖右富嶽之皚二左巨島
之圍二俯察衆山之崩施周覽羣嶼之
峯岨立觀十邦坐辨八極實東海之絕
勝也而天下之奇觀也乃探篋裝操筆
硯將畧圖真形以示於同好及臨紙醺

筆若存若亡無由下毫於是釋筆喟然
嘆曰吁嗟聞之古者善畫有舍筆松豈
不信然哉頃間友生江藻司馬氏齋其
所著西遊旅譚諗余題其篇端開卷閱
之則遊乎西邦之記也其所經過名都
樂國神宇梵屋靡不采覽異言殊辭童
謠歌謳靡不畢載間之以圖畫以便其
觀覽因試案其日金山圖崎嶇嵯峨堂

決鬱紆髣髴若視其處恍惚若在其所
復亦嘆曰寫真之妙一至於斯乎余雖
未西遊也覽其所已觀而信其所未遊
昔者有為齊王畫者王問曰畫孰竄難
竄易曰犬馬竄難鬼魅竄易犬馬旦暮
在人之前不可類之故難鬼魅無形無
形者不見故易司馬氏是舉也演風俗
之美惡圖地形之險易皆考實按形之

事也豈特犬馬之難哉若夫使斯文遭輜軒之使以為奏籍亦必為洽見之奇書不刊之碩記也曰以是為序云
寬政甲寅五月戊申

福山 太田方撰



西遊旅譚卷之一

天明戊申の四月廿三日芝門シモンを發ハツして神奈川乃

驛エキ

ふゆる青木町より右れ方山に登ノボる熊野權現の

宮又飯綱イヅナれ社より夫より田畑をさくく一本松とて

少るきあるは是よりシダ一ミレ臨ミレば南蒼海サウカイをのぞむ海カイ

中に洲スより乃コレ天女の社より其向可ハ野毛ノゲ本目ホンモク十

二天の森をさく。東乃方筑波山西の才富嶽フジに

對タイする甚ハナハダの絶景ゼツケイなり

小田原乃驛より左れ方ふ入里州熱海アタミを七里みふ

山中^{ウミ}に^{オホシ}て^{シマ}た^{ケイ}方^イ海^{ヨシ}也^シ大^オ島^ホ初^シ多^タ又^オて^ホ景^ケ佳^イ此^コ山^サ中^チ大^オ石^シ多^タ

石^{イシ}と^ト切^キ土^ツ又^{マタ}眞^{マコト}鶴^{ツル}石^{イシ}ト^ト云^ク近^{キン}年^{ネン}伊^イ豆^{トウ}御^ミ影^{カゲ}石^{イシ}と^ト云^ク出^デる^ル事^{コト}三^{サン}里^リ餘^ヨ

土^ツ肥^ヒ村^{ムラ}有^{アル}田^タ夫^フノ^ノ家^カニ^ニテ^テ酒^{サケ}食^シヲ^ヲ高^{タカ}熱^{アツ}海^ミに^ニ至^シ本^{ホン}陣^{ジン}今^{イマ}井^イ

半^{ハン}太^{タイ}夫^フ方^{ホウ}此^{コノ}園^{エン}中^{チュウ}より温^{オン}泉^{セン}涌^{ユウ}出^デす^ス事^{コト}晝^{チウ}夜^ヤも^モ度^{タク}

甚^{シバ}熱^{ネツ}湯^{タウ}に^ニて^テ此^{コノ}一^{イツ}村^{ソン}總^{ソウ}て^テ温^{オン}泉^{セン}と^トす^ス

海^{カイ}中^{チュウ}にも^モ湧^{ユウ}出^デる^ル所^所と^ト夫^フより^{ヨリ}七^{シチ}八^{ハチ}町^{チュウ}東^{トウ}乃^ノ方^{ホウ}山^{サン}路^ロと^ト云^ク

て伊^イ豆^{トウ}権^{ケン}現^{ゲン}の^ノ社^{シャ}と^ト般^{ハン}若^{ニヤ}院^{ヤン}と^ト云^ク其^{コノ}山^{サン}下^カの^ノ者^{モノ}邊^{ヘン}に^ニ飛^ヒ

泉^{セン}と^ト稱^{セイ}ふ^フ此^{コノ}湯^{タウ}也^ヤ病^{ヤマヒ}を^ヲ治^{オサメ}効^{カウ}驗^{ゲン}乃^ノ事^{コト}と^ト云^ク俗^{ソク}云^ク鉄^{テツ}

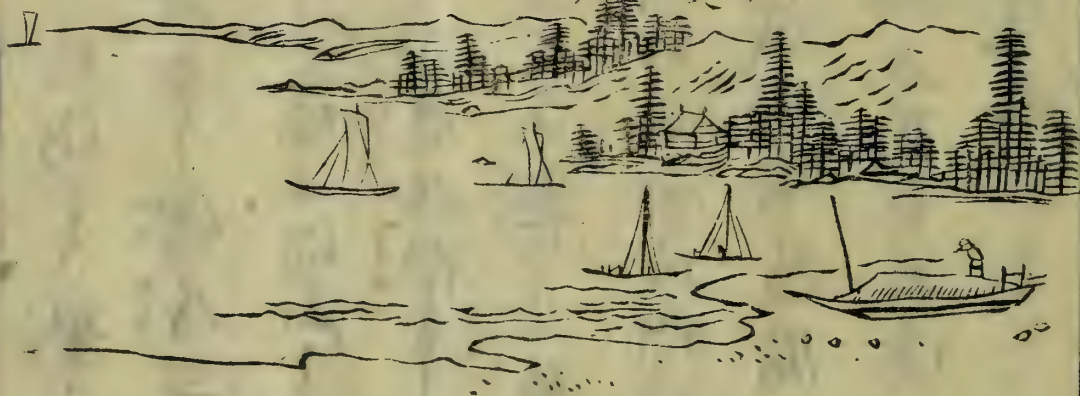
泉^{セン}と^ト稱^{セイ}ふ^フ此^{コノ}湯^{タウ}也^ヤ病^{ヤマヒ}を^ヲ治^{オサメ}効^{カウ}驗^{ゲン}乃^ノ事^{コト}と^ト云^ク俗^{ソク}云^ク鉄^{テツ}

神奈川ヨリ
南海ヲ望ム

本目
モリ

洲間
弁天

野毛
ノゲ



熱海之圖



日金山ヒガ子ヤマの熱海より登ノボ事五十町頂イタキに地藏堂丈

六の銅佛ドウブツより僧房三軒ソウボウより肉食妻ニシキサイタイ賁シ人

の居所より疎う深山ソウシヤンにて田畑ワラサス不作只弟ケヤ小母サマを生

く樹ツより鹿猿シカサル糧多オホカミ夫より又登ノボ事五町丸山あり

其山徑サンケイ狭ワカニ一人を通ワラズてぬ後領セウテウより四方ヨウホウとゆいふや

伊豆國加茂郡日金頂所眺スミタ望者十國五島自子至卯

相摸國武藏國安房國上總國自辰至申其國

所隸之南五箇島及遠江國自酉至亥駿河國信

濃國甲斐國

實ベコトに眺望テウボウ望シユイ四維シユイの達セツケイ景ケイを画クハ意イに

話タリをケイもエ經營ケイ甚エく

温泉オレセンは西南の方來キ乃社オホアナムタクノミコトあり大貴ミツ已命ミツを祠ミツる

總スミて此處スミ大楠スミあり十五園ナナリの樹スミをスミる

熱海ネツは三島ミ道ミチ還ヘンの方コユ越コユるに五里コユ河コユ山中コユは

人家ニは二里ニふお登ノボル崎トヲゲの地ニをニる堂ニクジキ守ニクジキ肉食ニクジキ

妻サイタイ其弟ハウオウ屋ハウに老婦ラウバの一人ハクハツをミタシる白髮ハクハツと乱火ミタシをミタシる

多ミエズく物ミエズは其真マコ実マコの窓シヤウをミエズる人ジン語ゴの御音ヒキをシヤンる山シヤン

幽谷ユウコク之事コト同トフ人コトもなけり夫シダは山シダをカルり輕井カル澤シと云

所^ウも^ハ初^{ハツ}く人^{ヒト}家^カと又^{マタ}ビシ^シノ澤^{サハ}平井邑^{ヘイ}と^コ路^チなる^ナる^ル

ニ^ニ山^{サン}は^ハ来^キつ^ツ出^デる^ル此^{コノ}山^{サン}中^{チュウ}に^ニ天^{テン}麻^マ天^{テン}南^{ナン}星^{セイ}の^ノ花^{ハナ}多^タし

五^イ里^リの^ノ山^{サン}路^ロ第^{ダイ}一^{イチ}と^ト大^{ダイ}木^モ多^タし^シ熊^{クマ}住^{ジュ}す^ス又^{マタ}大^{ダイ}木^モ多^タし^シ熊^{クマ}住^{ジュ}す

伊^イ豆^豆天^{テン}城^ギ山^{サン}五^イ里^リ十^{ジュ}里^リ人^{ヒト}家^カと^ト又^{マタ}大^{ダイ}木^モ多^タし^シ熊^{クマ}住^{ジュ}す^ス又^{マタ}大^{ダイ}木^モ多^タし^シ熊^{クマ}住^{ジュ}す

付^{ツキ}景^{ケイ}なり^{ナリ}

熱海より日金地龍堂

まゝの^マ事^{コト}五^イ十^{ジュ}町^{チュウ}に^ニ

サイノ河^{カハ}原^{ハラ}の^ノつ^ツみ^ミの^ノ山^{サン}に^ニ

仰^{オウ}て富士山^{フジサン}を^ヲ望^{ノゾミ}む^ム時^{トキ}に^ニ

五^イ月^{ゲツ}七^{シチ}日^{ニチ}終^{シュウ}頂^{テイ}積^{セキ}雪^{セツ}の^ノ銀^{ギン}



六角地堂ハ地蔵丈六ノ
坐像ニシテ銅佛ナリ
ナリ
ナリ
ナリ



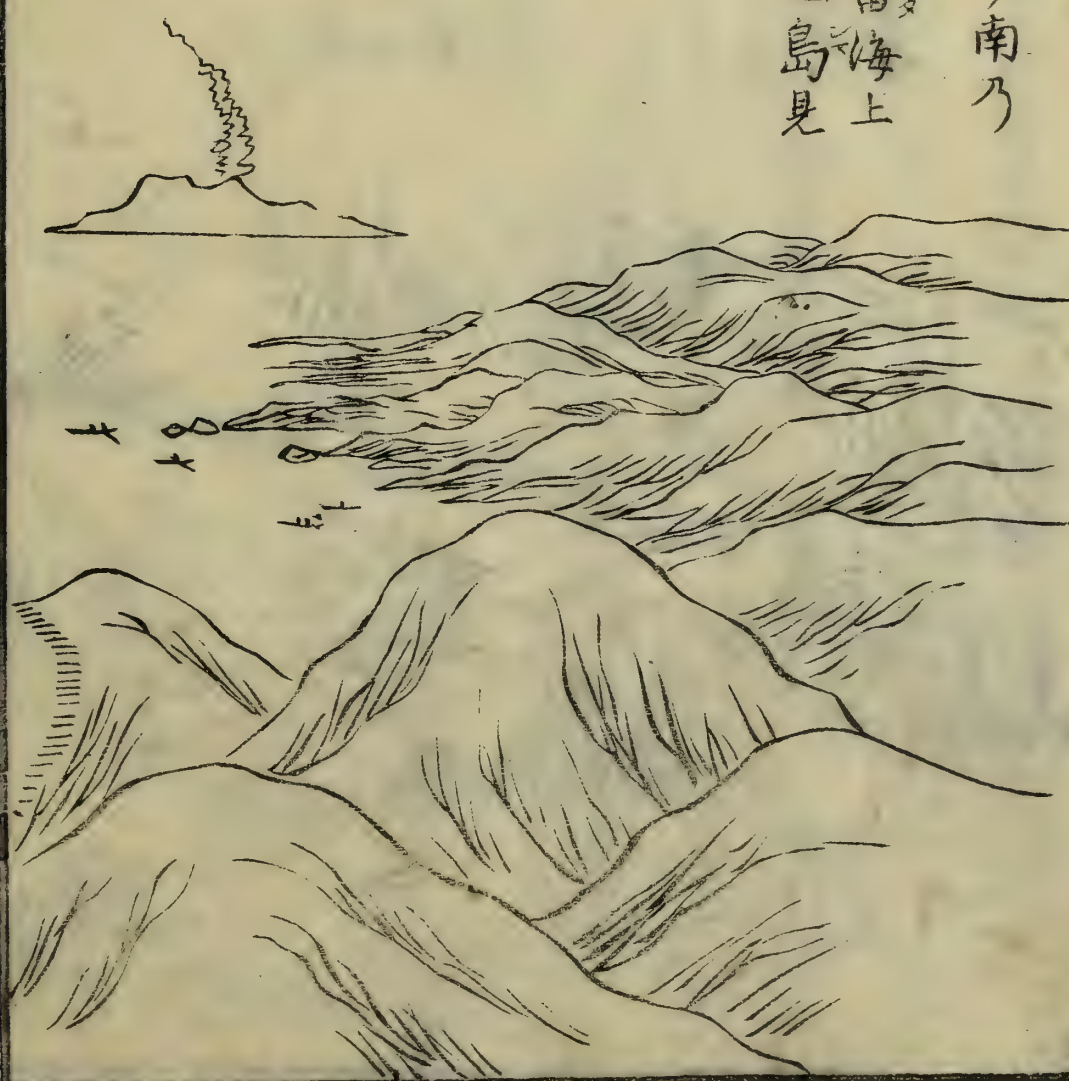
日金山頂丸山より南乃

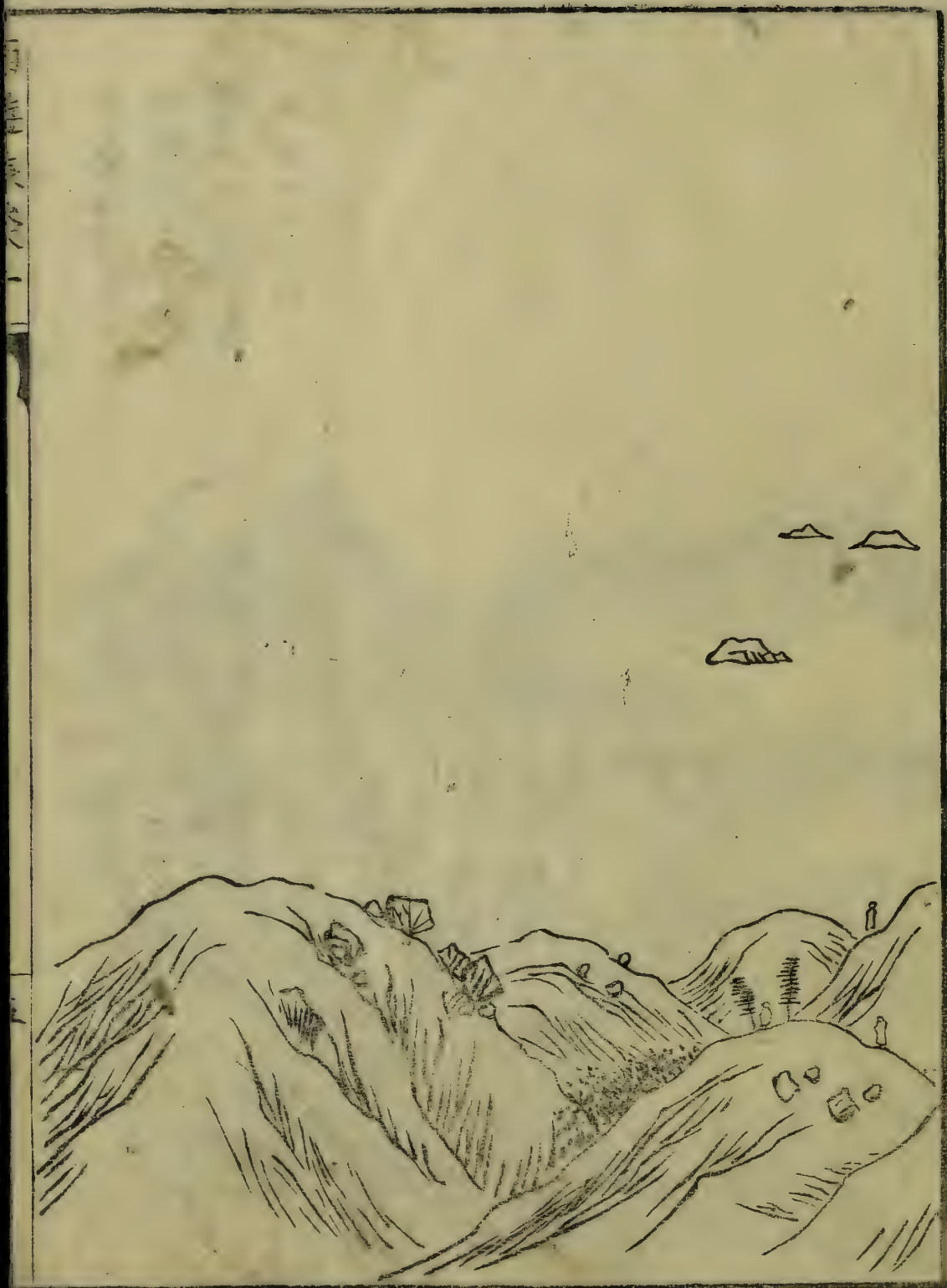
方を

右ハ熱海細代下田海上

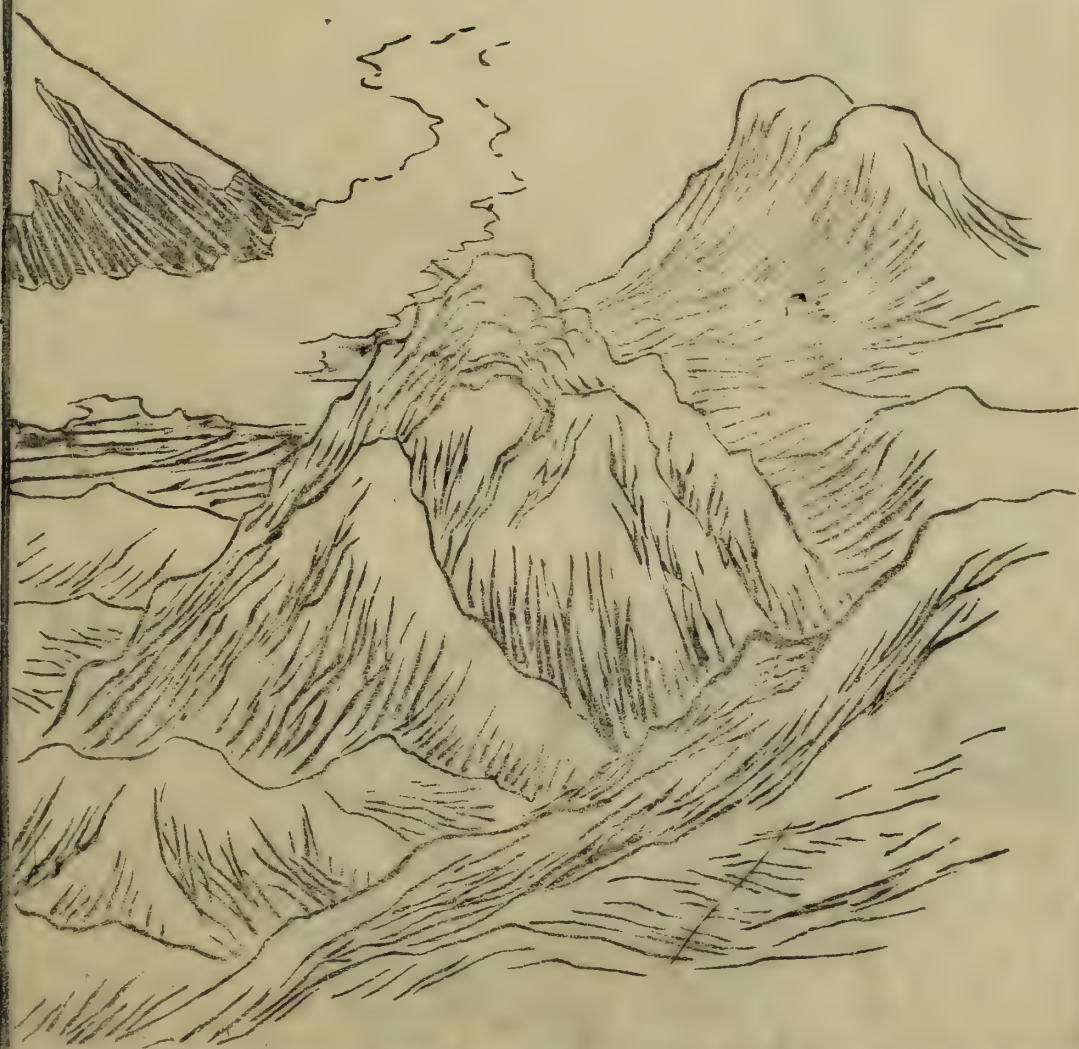
大島新島三宅島見

い



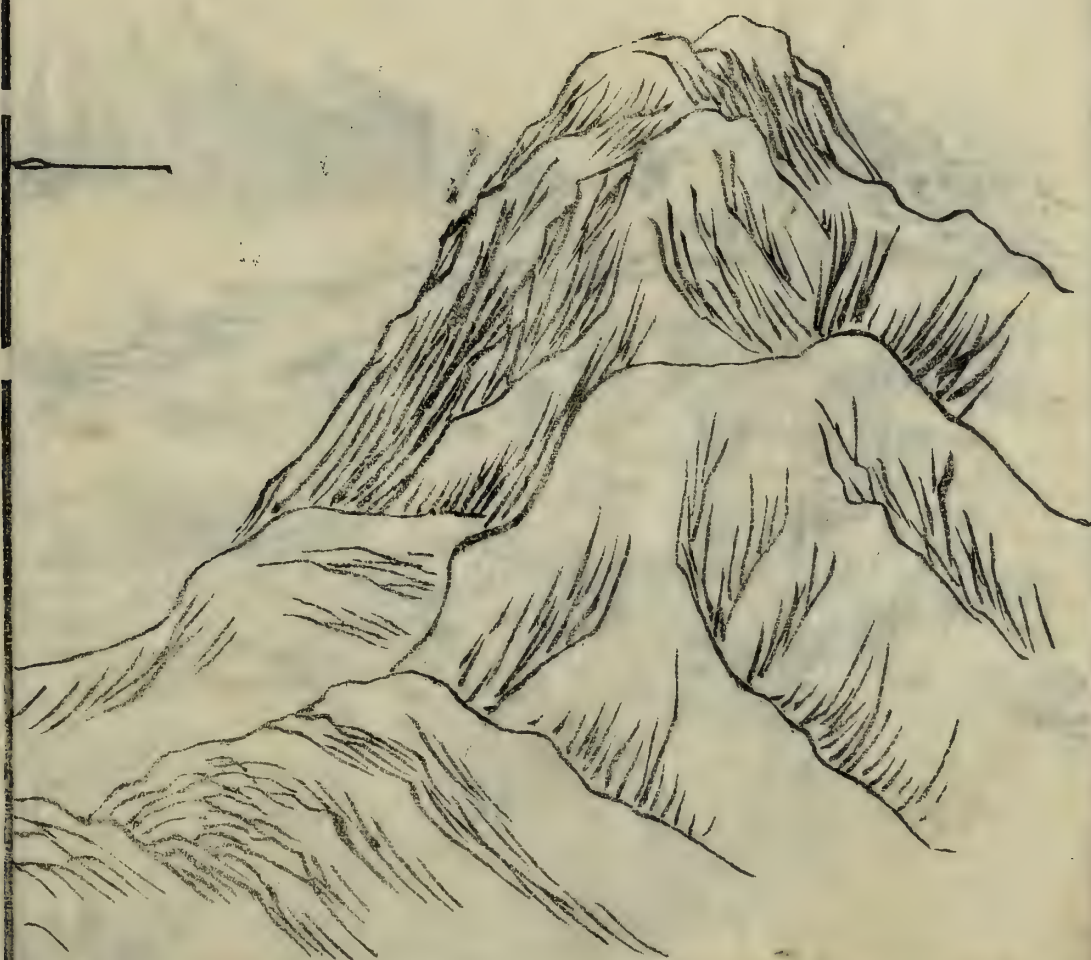


目 金山頂より
北の方をちむ
富士山左ハ足高
山右ハ二子山

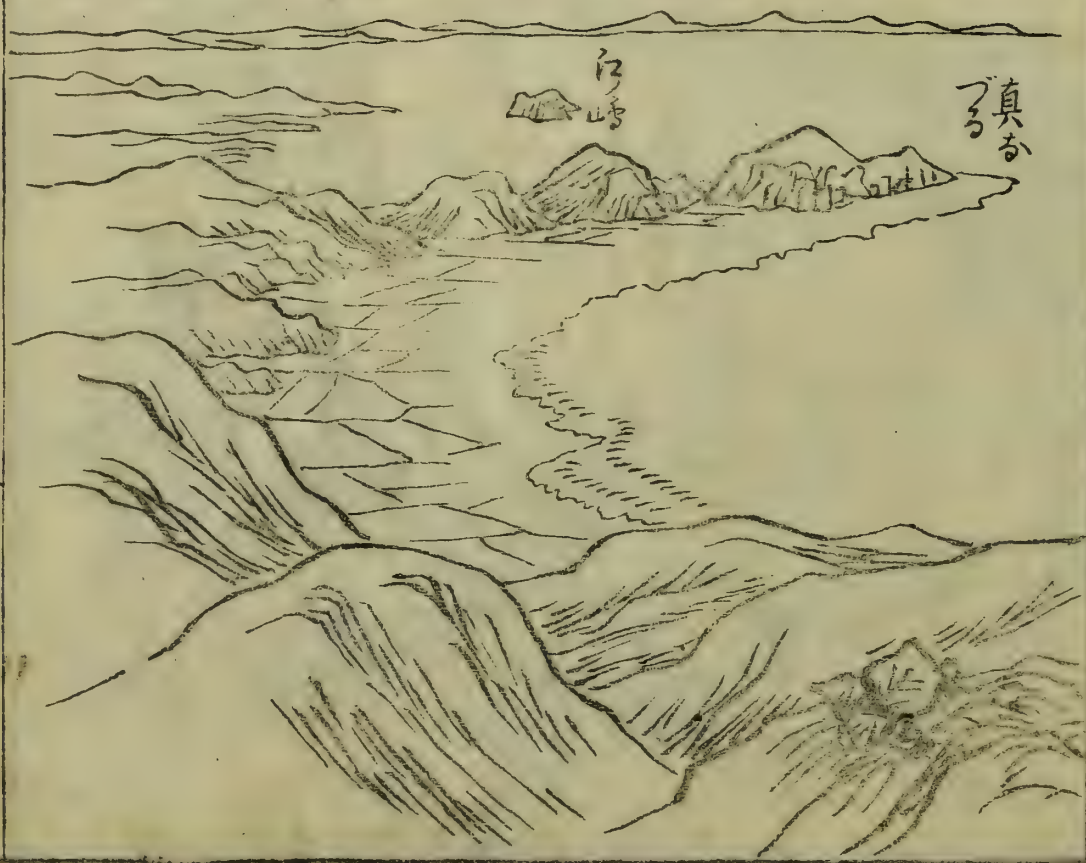




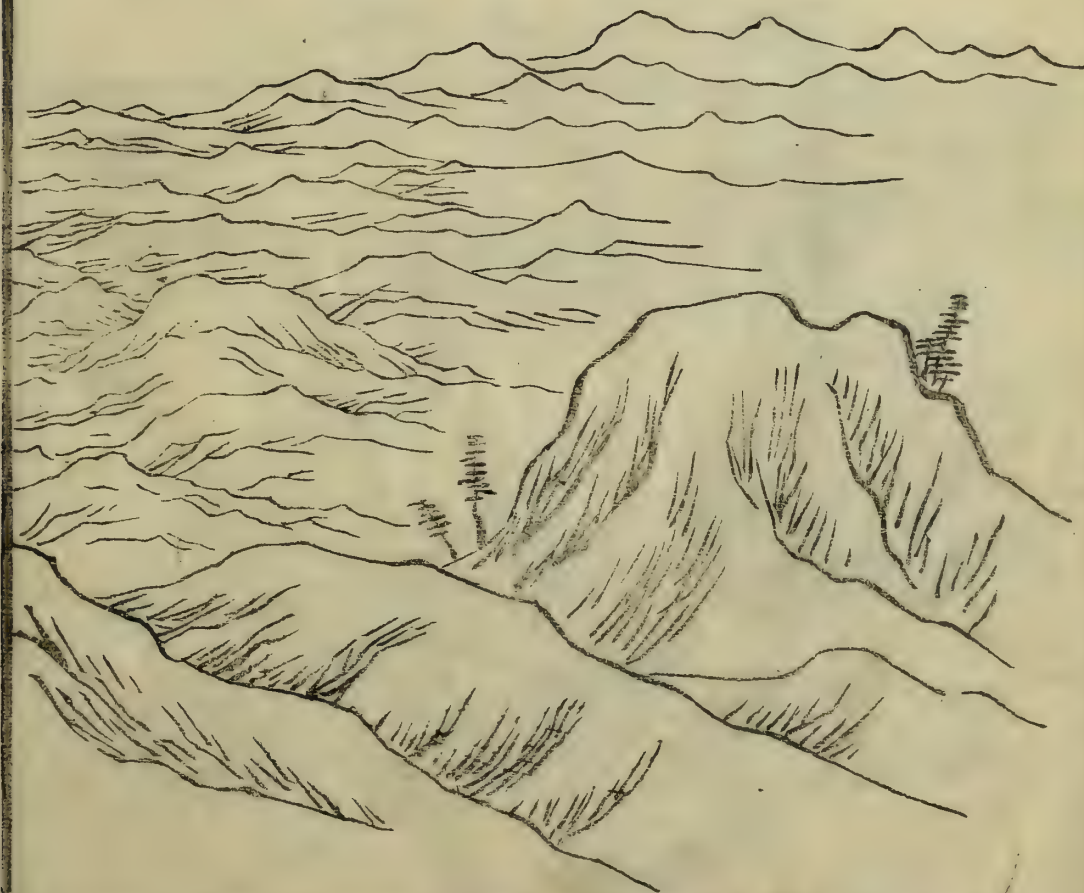
日金山頂より
東の方を見る

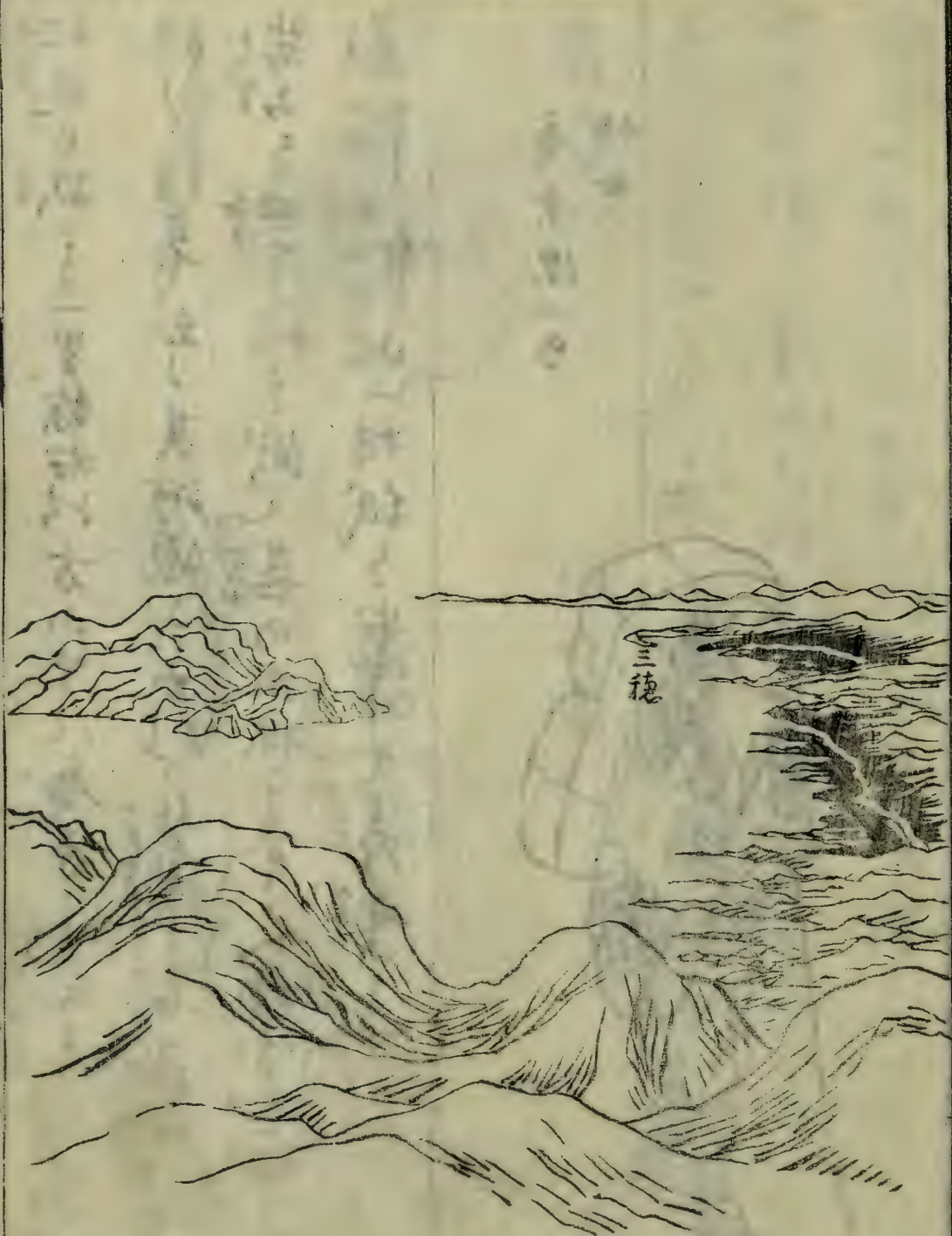


房 岬 上 總



日金山頂より西の方を望
相模山三島沼津狩野川
富士川見元





江尻エジリの歌エキより一里餘右方山中に庵原ユハラとある。庵原河

流はまゝ出づ其河源をわたり北キタ龍リウと名龍泉ヒコニあり

山石カンゼキを廻カて流を渡ワタる甚ヘンの山林とて人物タフ多し

名ナ太布ホハ科シナト云ル此一村紙を製シて産サ業ガクとす

庵原深山の
婦女



駿府^{スミ}所^フ敷^フナナ^フ所有^{イタ}皆^ヤ板^{ツクリ}屋^フ作^フ御^ミ城^{シロ}ハ^ハ往^イ來^キの^ノ右^ミに^ハあり

四面^{シタ}山^{ヤマ}繞^{マタリ}々^々氣^キ候^{コウ}不^サ順^{タラズ}夏^カ月^{ゲツ}忽^タち^チ變^ヘじ^ル冷^{レイ}ま^キと^スる

土^ド俗^{ゾク}曰^{イフ}富^フ士^シ山^{サン}々^々冷^{レイ}際^{サイ}乃^ナ風^フ々^々吹^フき^オろ^スユ^ヘと

覇^サ王^ボ樹^{テン}花^{ハナ}

同全圖



花^{ハナ}れ^レ色^{シロ}
カ^カバ^バ黄^{ワウ}



久能寺觀音山ヨリ
富嶽ヲ望ミ圖

伊豆天城山

鶴巻山

鷲頭山

箱根山

二子山

足柄山

足高山



昔雪舟遊于支那而所
 圖富嶽景何乎望無知
 者余登於駿陽矢部補
 陀洛山上始觀之
 寬政己酉春三月三日
 寫於平安客館乃入
 天覽

薩埵山

清見寺山

清水町
 湊



八部龍王寺リウケに園中エンチュウに大徳鐵霸王オホトリテウサボテン樹ハタタチ甚大タイジユ

石ソノコ花ハナを流ナガすス程ハナ久キウ能ネ寺ジ久キウ能ネ山サンニアラズ別オリ江尻エジリ海ミナトテ

石イシ跡サカをのりて觀音堂ケンオンドウあり眺中テウチュウす不眼ガシカ下に清水シメツ湊

人家ジカセン千餘軒ヨケンあり清水ナガ川カハ海カイ中ウチ三穗ミホ北キタ原ハラ面

に富士フジを望む九難坂サツタタウゲ由井ユイ沖津オキツ江尻エジリ清見寺

山ヤマ右ミドリ足高山タカ多栖山タシ根根山ネネ三子山サンシ伊豆イヅ鶴巻山ツルマキ就ツク鳥頭山

天城山テンジョウ見ミて日本第一フウケイ乃風景ナニ妙ミウ

遠州掛川の驛ユキより秋葉山ユキ行二里ヤニリ山路ヤニリをて山ヤマを渡ワタリ

又ゆるり二里川を越て森宿モリヤリ富高トモタカ下カ茶師チヤシ多タ夫フよりゆるり三里

一瀬イチセと云ふイタル此方川を越し、車 四十八歩あり是よりフモト棟

まゝ、三里と棟のちにフモト瑞雲坂バイウンをり、瑞雲寺バイウンジとまゝより

小天龍川フナワタシ舟掛川を入イッて山崎ヤマクミナ大本多し杉木の

山モツモタカシ尤高フモト林より山に登りノホル五十町唐銅の島居り額ガクニ金明キンメイ

嶺レイ山門に窮勝閣本堂に大登山ダイトウザンと云ふ堂ハ南面奉為寺タンメンカンガシ観カン

音を安置アンチし鎮守南向権現の社と寺とチンジュ禪宗チンジュウ新無寺

と云是より三河國鳳來寺ホウライジにゆミナ治也則寺のウシロ後サカの方坂

をり、車 五十町戸倉トクラと云ふある山坂より半里ハシリと云ふ

犀河舟渡サイカハ天龍川フナワタシの源也ミナモト此處コノヘン總スベて米イモ芋ヒエ稗ヒエを

如板イタノコシユ故ナヅふ名と程々鳳ホウ来ライ寺フモト椿フモトより五斗町山にのびぬ

行者越

ふ所一町余^{ノボ}に^{ガニ}岩^{セキ}を^{ヨチ}鑿^{ビツテウ}て^{イタ}後^{イタ}頃^{イタ}に^{イタ}至^{イタ}る

遠州海路

に
て
山
連
て
波
の
み
し
る
を
て
三
田
山
を

クセリ
下て
イシ
サカ

のたて現の
ホミ祠
サカノミタ階下塾師堂より
あらじや来社本

堂の後ウシロ

小多左地方岩にて塔を築き
石塔をり

事九町二丁半

に十二坊ボウ天台真言テタイシンゴン二派ニハ五智カクタク願ガン天台テタイ

シヤウカウサニ
有公高院

井ノ口井シ
スナハチ
リヨクニ
トニリヤ

多しとてさう
瀬川へ
出
溪タニの方と
流ナカルる川と
舟と

セニ
カノムラ

物之
曉川と名をうて
新城ニ
之里富商ニ

夫より野田、二里十六町大木村、三里豊川、存り、小、

十
 カウ
 ト
 高戸ノ原
 ヤウヤク
 ゴ
 一里余
 御油
 出

熊村

此處曲辰夫八舎と山乃半に
 作り別二軒時山に作
 を作しひよつても猪猿多
 くと畑をあらひぬ廻
 に垣をむく一園
 谷へれや家々猪番
 小なうく日暮り
 赤い山に此の熊村
 庭の字に安す秋
 少くは猪追ふと
 夏月しつても飯は



鳳來寺乃方重山
かぎりなく見ゆ



執力州日永村ツンツン踊之圖

唱^{ウツラ}
文句^{ミク}



か^カツ^ツツ^ツ

ツ^ツツ^ツツ^ツ

ツ^ツツ^ツ

サ^サカ^カビ^ビ
津^ツツ^ツ津^ツ

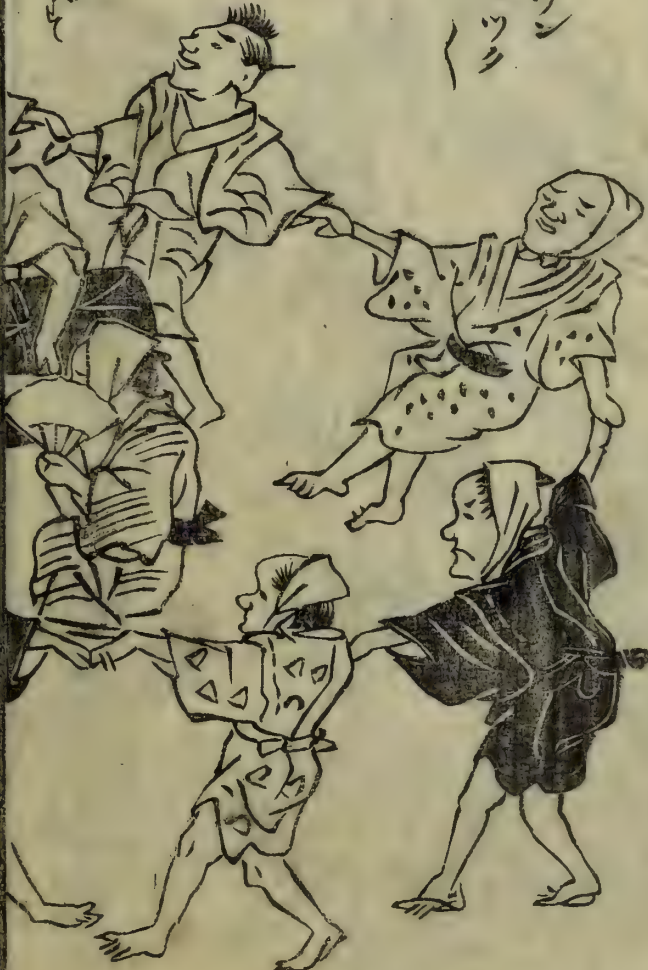
田^タを^を植^ウク

一^{イチ}斗^トう^ウれ^レと

チ^チと

ニ^ニ斗^トう^ウれ^レと

数^{スウ}々^々々^々



お花の集り

富士の山

酒つづれ

泉源

みづやうま

海をよ

馬でやうい

山坂よ

車でやうい

道が

テテツク西の山

あともうい

いともうい

いともうい

手切あ

美顔小女郎

城よソウワウ

是山で

エイトラ



四日市盆踊

おんど唄^{ウタ}を

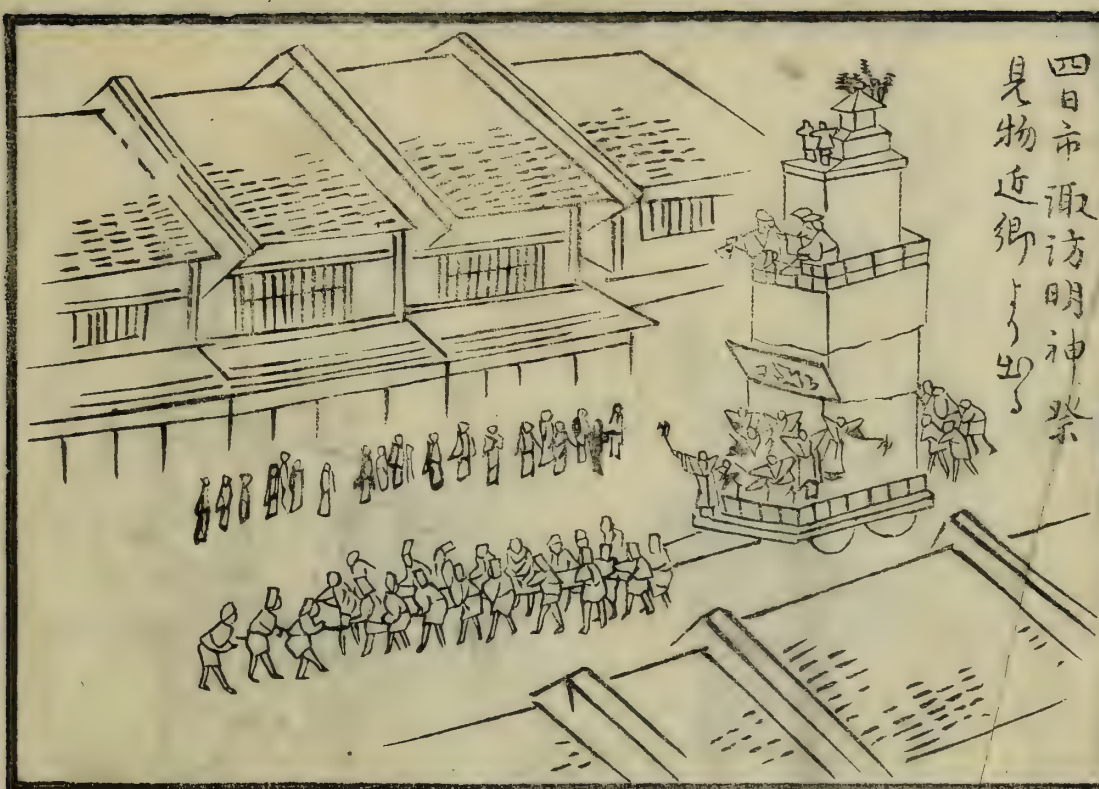
文句

う





四日市諏訪明神祭
見物近郷より



提灯
の
り

夜よ入
山々
男女
丁

ヒ
ナ
リ

ヲ
十
コ

カ

ウタフ

ウタフモノ

ヒナカタ

エ
チ
ウ

2L

十四元

ミトモト

廿日湯山より蘇野より二里餘一里とて方一里程の石を山毎に

白真桔梗女島を以秋夜感と自夫漢河城渡り山中に入時

砂山より砂流て山骨を顕大石道路を塞又より半里漢

流より水中岩石を以て石頭を越て漢流其河

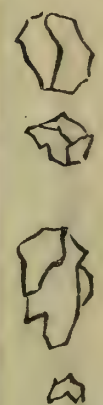
より四五町より漢水より同く越て左右大山より

より人あたる山を挟て坂を度金と仰り十軒并其半より湯

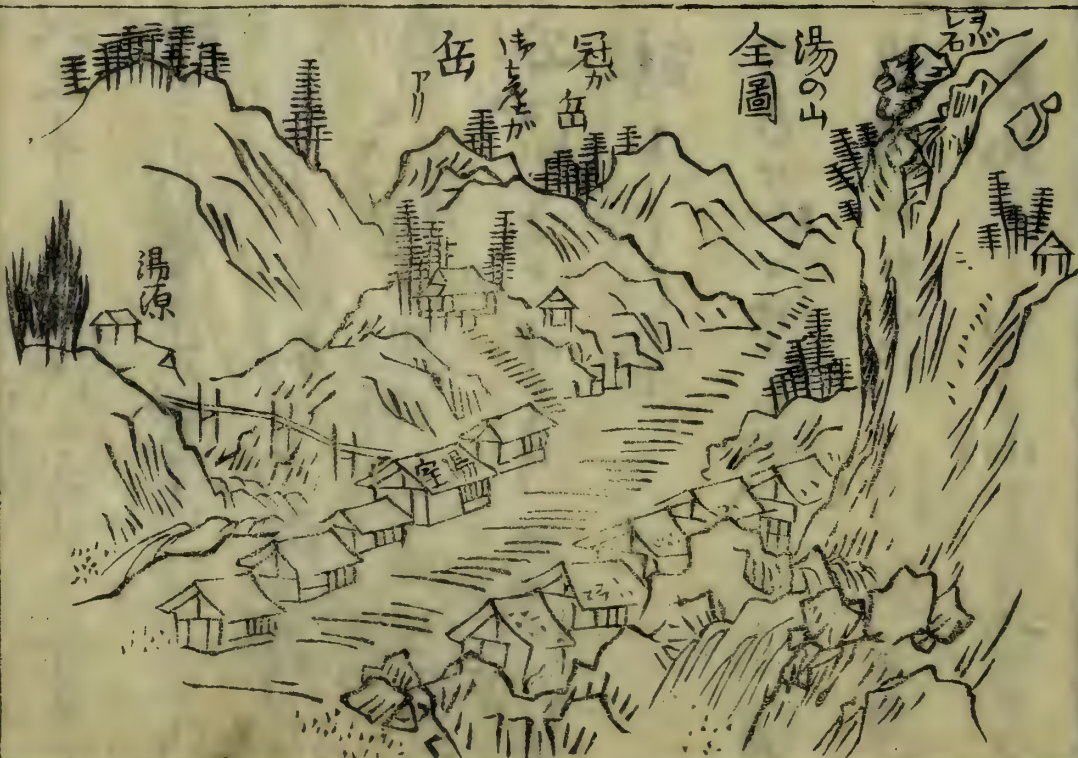
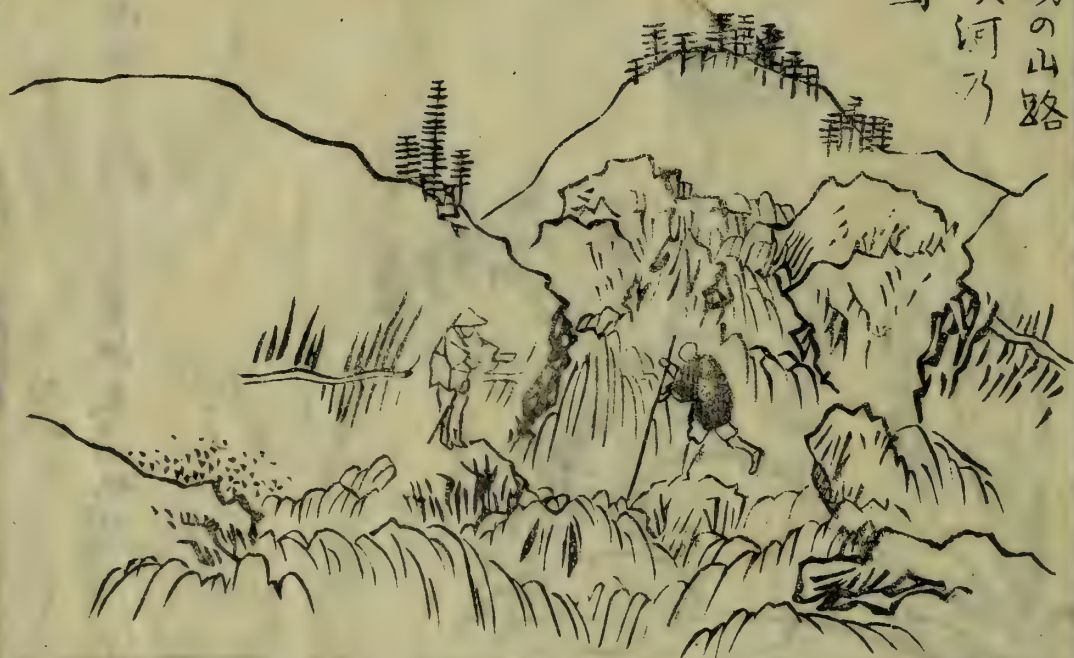
室より温泉水のより火を焚湯より浴する者あり此地嶮岨

より大樹あり五穀不生此處土より皆山石より大石の

破て砂よりなる



湯の山路
溪河乃
圖



此山は岩ありて山は高く
岩石は傍ら生る大木也 圖



此山中夏月ハ^{イキ}氣虫を不生^{ス、シク}

蚊^カも冬月ハ雪深^{ス、シク}

傍^{ス、井}ら^ハ近江國^ヒ日

野^ノ山越^{ヤコエ}四里^{ハカリ}許^{モツトモシ}人家^カは

谷^{タニ}流^{カハ}る^ハ六瀬^{ロクセ}根^{オホカモ}

熊^{クマ}多^ハ

七月廿六日廿七日四日市^{スハ}諏訪

明神の^{キミ}系^{カウ}の^ハ者

見物^{ミモノ}し^ハ山^{ヤマ}と^ハり^ハと

作又福^{ツクリ}のふり此驛^{ツクリ}より京^{キョウ}に属^{ツク}す東方^{トウホウ}の風俗^{フウフク}

婦人^{フジン}髪^{カミ}れ風^{フウ}も吹^{フク}京^{キョウ}の意^イの^{リウカウ}ふり^{ハヤリ}社^{シャ}に^{フミ}訪^{フミ}婦^フ女^{ニョ}

頭^{カシラ}の^{ボウシ}帽子^{カウキ}を被^カ夏^{ナツ}月^{ツキ}に^{ワタ}綿^{ワタ}を^{ヲナユ}

葉^{ハナ}名^ナより^{カサシ}家^{ウキス}作^{ウキス}あり

勢州^{セイシュ}石^{イシ}葉^{ハナ}師^シより四^シ里^リ
 山中^{サンチュウ}に八^{ハチ}石^{イシ}太^{タイ}神^{カミ}の^{カミ}
 数^{スウ}丈^{サウ}に直^{チキ}立^テして
 白^{ハク}石^シより



石^{イシ}を^ヲ沖^{ホリ}
 入^{イリ}屏^{ビョウ}風^{フウ}
 岩^{イハ}より



大^{ダイ}九^ク町^{チヨウ}ハカリ^{ハカリ}間^マ
 西^{セイ}岩^{イハ}壁^{ヘキ}白^{ハク}岩^{イハ}
 ニテ^{ニテ}松^{マツ}楓^キ多^タシ^シ秋^{アキ}ハ
 紅葉^{コウジ}ニテ^{ニテ}画^エノ^ノ如^ニシ



以神戶を以て白子觀立亭也
伊勢糸宮道也
 夾

津ツ ある 藤堂侯三十一万石 乃 城下あり

比屋 比ヲシ
紐様 紐サマ
に 二
丁 丁
續 續
富 富
高 高
多 多
は 是
川 川
舟 舟

渡此川伊賀山より出づ夫より又河を

二 瀬 け ち 此 方 木 坂 を け 人 家 へ 至

富商多夫之事フシヤウオホシノコト四里小畑チハタ又新

榮屋うゝしをさるゝ

舟渡りしと山田人家建続あり
フナワタリシトヤマダノイヘノタチツキハシジヤウ

の地^{ゲシ}外宮^{ゲシウナイシウ}内宮^{ナイキウ}の方^{フウ}古市^{コイチ}中

乃地^{ノチ}乃^ノ所^{シヨ}倡^{シヤウ}家^カ多^{オホ}一

二見ノ浦

向ノ所鳥

羽浦島

見元



六日二見ノ浦乃方山田を獲て

山中にゆき半里許に

三河河ノ境今所より舟に

程を二見ノ浦よりゆき

乃の浦をめぐりゆき

皆河ノ城より一村入川

舟より舟より山をめぐり

又諸^{シヨヘシ}處^{ナキ}に出る他の浦より

舟より舟より松山

にへ 志麻手國鳥羽浦あり人家多し市街あり

是より四里より五十町一里より此浦より西國の方乃船を掛

關東の方渡り日能山登り四方乃多し是景也

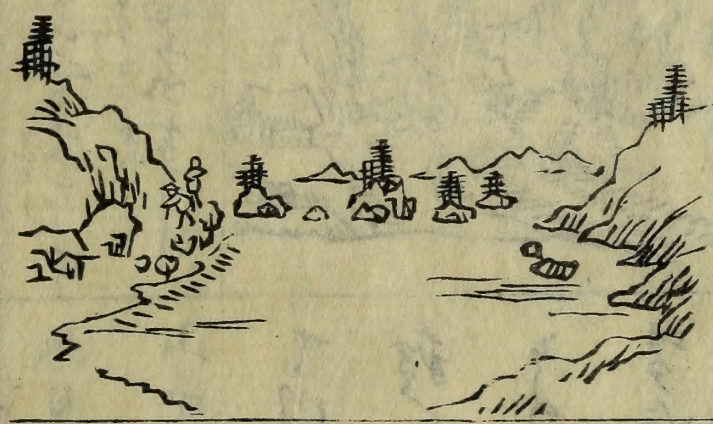
イキテ
カケイ
ヨネケシキ

池の浦の圖

飛鳥山七ツ崎

又ゆる東の方

}



鳥羽

日よ

山

小の方

又ゆる

多し

又ゆる

景也

